図書一覧

	書名 ▼	コメント数 ▼	最新投稿時間 ▼	☆のトータル ▼	☆の平均 ▼
1	ブラック・スワン 上・下	10	2010/02/15 01:35:27	34	3.4
2	リスク 上・下	9	2010/02/14 13:29:34	30	3.3
3	アニマルスピリット	7	2010/02/15 00:56:29	20	2.9
4	実践行動経済学	1	2009/10/12 20:00:14	5	5
5	人でなしの経済理論	10	2010/02/15 02:33:28	35	3.5
6	アダム・スミス	7	2010/02/14 11:15:48	31	4.4
7	真説アダム・スミス	6	2010/02/01 01:46:25	11	1.8
8	予想どおりに不合理	19	2010/02/14 21:04:41	80	4.2
9	経済は感情で動く	13	2010/02/15 02:42:53	42	3.2
10	ヤバい経済学	14	2010/02/15 01:55:53	47	3.4
11	秘伝のタレは腐ってる	10	2010/02/15 01:00:33	32	3.2
12	大相撲の経済学	18	2010/02/14 03:33:31	66	3.7
13	選挙の経済学	1	2010/02/15 00:13:59	1	1
14	「みんなの意見」は案外正しい	8	2010/02/15 02:46:28	22	2.8
15	コークの味は国ごとに違うべきか	4	2009/12/15 12:31:48	11	2.8
16	急に売れ始めるにはワケがある	11	2010/02/15 02:51:49	31	2.8
17	透明人間の買いもの	27	2010/02/15 04:48:16	92	3.4
18	任天堂 “驚き”を生む方程式	30	2010/02/15 04:20:31	123	4.1
19	貧困のない世界を創る	3	2010/02/14 22:58:08	9	3
20	チェンジメーカー１・２	10	2010/02/15 03:49:50	36	3.6
21	未来を変える80人	14	2010/02/14 22:06:41	54	3.9
22	いつか、すべての子供たちに	4	2010/02/12 23:23:50	10	2.5
23	国をつくるという仕事	8	2010/02/01 22:36:03	28	3.5
24	「社会を変える」を仕事にする	16	2010/02/14 23:40:51	70	4.4
			2010/02/14		

25	グリーン革命 上・下	4	14:41:30	9	2.3
26	祝福を受けた不安	5	2010/02/15 02:56:49	12	2.4
27	地球のハローワーク	21	2010/02/15 01:09:55	87	4.1
28	ハチはなぜ大量死したのか	22	2010/02/14 23:26:56	72	3.3
29	生物と無生物のあいだ	18	2010/02/15 04:02:24	65	3.6
30	動的平衡	7	2010/02/14 21:09:04	29	4.1
31	エレファントム	5	2010/02/14 21:59:55	11	2.2
32	１０万年の世界経済史 上・下	1	2009/10/13 11:59:44	3	3
33	マチュピチュ―天空の聖殿	14	2010/02/15 05:15:19	47	3.4
34	ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下	4	2010/02/13 22:47:25	17	4.3
35	決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル	6	2010/02/14 21:32:53	22	3.7
36	死刑執行人サンソン	23	2010/02/15 01:04:00	103	4.5
37	フランス反骨奇人列伝	12	2010/02/15 02:59:42	39	3.3
38	怖い絵 １・２・３	27	2010/02/15 04:36:08	88	3.3
39	ファッションから名画を読む	9	2010/02/15 03:01:59	36	4
40	感染地図 －歴史を変えた未知の病原体	10	2010/02/14 14:35:11	34	3.4
41	暗号解読 上・下	10	2010/02/13 00:31:14	41	4.1
42	戦争広告代理店	4	2009/12/03 14:33:58	15	3.8
43	カラシニコフ　・	13	2010/02/14 14:50:41	51	3.9
44	カブールの本屋 －アフガニスタンのある家族の物語	8	2010/02/14 01:43:02	35	4.4
45	オバマ大統領就任演説	12	2010/02/14 23:45:27	45	3.8
46	強欲資本主義ウォール街の自爆	5	2009/12/22 12:42:30	18	3.6
47	ルポ 貧困大国アメリカ	11	2010/02/15 03:09:59	44	4
48	やってくれるね、ロシア人！	6	2010/02/13 15:24:08	24	4
49	中流社会を捨てた国	5	2010/01/26 15:21:56	19	3.8
50	本当の中国を知っていますか？	5	2010/02/15 03:20:01	13	2.6
51	半島へ、ふたたび	4	2010/02/14 14:32:55	12	3
52	物乞う仏陀	13	2010/02/15 02:18:00	54	4.2
53	神の棄てた裸体 －イスラームの夜を歩く	7	2010/02/14 14:39:03	27	3.9
54	絶対貧困	8	2010/02/15 02:28:41	32	4
55	ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩	9	2010/02/14 14:54:39	36	4
56	ASIAN JAPANESE 1	8	2010/02/15 02:40:32	26	3.3
57	アフリカ 苦悩する大陸	5	2010/02/13 22:33:29	16	3.2
58	アフリカ・レポート	9	2010/02/15 03:29:28	35	3.9
			2010/02/15		

59	日本列島の２０億年	12	01:00:29	49	4.1
60	歴史が教えるマネーの理論	8	2010/02/10 19:15:23	24	3
61	武士の家計簿	23	2010/02/14 09:30:10	87	3.8
62	ついこの間あった昔	12	2010/02/15 03:08:14	45	3.8
63	トランクの中の日本	11	2010/02/15 05:24:34	43	3.9
64	戦後日本経済史	4	2010/02/14 22:24:41	13	3.3
65	ぐるり一周34.5キロJR山手線の謎	24	2010/02/15 00:00:55	82	3.4
66	藤森照信、素材の旅	10	2010/02/15 04:10:08	40	4
67	自然な建築	16	2010/02/15 03:26:59	66	4.1
68	奇跡のリンゴ	10	2010/02/13 10:41:46	44	4.4
69	なぜ君は絶望と闘えたのかー本村洋の3300日	7	2010/02/14 13:23:24	35	5
70	反骨心	19	2010/02/15 01:07:48	68	3.6
71	日本人の知らない日本語	36	2010/02/15 02:07:51	152	4.2
72	街場の現代思想	21	2010/02/14 14:44:05	69	3.3
73	コミュニケーションデザイン	11	2010/02/15 05:10:29	50	4.5
74	プレイ・ジョブ	32	2010/02/15 04:07:20	122	3.8
75	アイディアのちから	29	2010/02/15 03:34:20	120	4.1
76	ギャシュリークラムのちびっ子たち	31	2010/02/15 02:53:46	116	3.7
77	山口晃作品集	24	2010/02/15 03:36:55	97	4
78	Blue-中村祐介画集	23	2010/02/15 03:44:11	96	4.2
79	チェーザレ 1～7	21	2010/02/15 02:38:25	72	3.4
80	のぼうの城	13	2010/02/15 03:49:31	54	4.2
81	ころころろ	10	2010/02/14 15:02:51	36	3.6
82	有頂天家族	20	2010/02/14 14:43:37	86	4.3
83	宵山万華鏡	11	2010/02/14 14:58:37	36	3.3
84	１Ｑ８４ BOOK1・２	18	2010/02/15 03:57:16	63	3.5

ブラック・スワン 上・下

著者名	ナシーム・ニコラス・タレブ	発行年	2009年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	526ページ
値段	1,800円	ISBN	4-478001257
コメント	7つの魔法のコトバで世界を変えてみせましょう。 「ブラック・スワン」と「七面鳥」、「月並みの国」と「果ての国」、「ベル・カーブ」に「マタイ効果」に「プラトンの性（さが）」。杖をひとふり、えいっ、さあどうだっ!! 比喩の巧みさ、問題の本質を突くするどさと知的ユーモア。今期山室的イチオシです。統計学のお勉強のかたわら、どうぞ（ニヤリ）。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
うろくた ☆☆☆	注 20分程度で流し読みしました 75p-からの拡張可能性とグローバリゼーションが非常に興味深かった。 現代の新書で最もホットな話題の一つがグローバリゼーションだろう。 中々面白い切り口で（月並みの国と果ての国）解説している。 物理的ではなく、社会的な要素は単なる『数字』であって、巨大な格差を及ぼす可能性があるという話は面白かった。			
	色々	50P (20分)	75-80	2010/02/15 01:35:27
thjam ☆☆☆	今までの自分の考えが一変するような衝撃的な内容でした			
	上全部 下全部	600P (480分)		2010/02/09 17:49:33
@ ☆☆☆☆☆	じっくり、時間をかけて読みました。わからなくなったらいろんなところを行ったり来たりしながら…。 実は10月頃に1回借りて読んでみて、「何だこれは？？」と、文章の意味が全く理解できないで、諦めてしまいました。でも、何冊か経済の本などを読んでみて、改めて読んでみると、理解もできたし、とても面白かったです。難しいと思っていた本も、何冊か他の本を読んでから読むと読めるようになる、そんな自分の成長喜びを感じられるのも、この講義の意義だと思いました。 時間なくて上巻しか読めなかったけれど、いつか絶対下巻も読みます。しかし、「黒い白鳥」…予測できないこと、非常に強い衝撃を与えること、一旦起きてしまうといかにもそれらしい説明を後付けしてしまうこと…これだけ見ると、なんだか私に恋人ができることを言ってるような気がするなぁ…そんな内容の本では全くないですけど笑 内容はというと、たくさんの人が信じていることを根底から覆そうとする筆者は、何だか偉そうだ			

	な、と最初思いました。今もかな。 しかし、立ち読みポイントにあげた、第8章の最初の部分は、私がずっと思ってきたことを見事に代弁してくれました。表舞台(多くの人の目につかないところ)に出てきていない人でも、すごい体験や成功、苦労をしている人がいるのに、多くの人は目だって、目に見えやすいものしか目に入れない、ということに、私はずっと苛立ちを覚えていました。(だから、私はサクセスストーリーを書いた本や、テレビや、1リットルの涙など、「世界が泣いた！感動の実話」のようなものがあまり好きではないのです。全く見ないわけではないし、こういうのに出てくる人をすごいとは思っていますが) これを「物言わぬ証拠」と表現するのか…うまい表現だなぁ。			
	上巻全部	291P (1000分)	186-207ページ	2010/01/19 12:22:43

TD ☆☆☆	難しかった。独特な言い回しが苦手で、上巻であきらめてしまったが、内容自体は面白いことをいっていたと思う。			
	上1-291	291P (200分)	特になし	2010/01/01 13:48:56

blue ☆☆☆☆☆	こんな本に出くわしたのは初めてでした。なにしろ、既存のリスクの考え方への批判の嵐。しかし、プラトン的な潔癖性、講釈の誤り、月並みの国としてのバイアスが今の社会に蔓延しているのは事実として受け止めた上で我々はどうすればいいのと匙を投げてしまいそうになる。 著者は、マンデルブロのフラクタクル性を考える方が幾分まし（それでも、ベキ数はかなり推定するのは難しいことに注意！）と提案してくれているが、自分が将来仕事をすることを考えるときっと既存の理論に依存してしまうだろうと少々むなしい気持ちになった。そうはいっても、この本は所々名言があり、最後まで懐疑的に楽しませてくれる面もある。 また、最後に「あなたが生まれるオッズは塵の方だからくよくよするのはやめよう、あなた自身が黒い白鳥のなのだ」と考えさせられるフォローがあって、本書な考え方は大事にしたいと感じました。			
	上：全部、下：全部	620P (660分)	下149-最後	2009/12/15 10:34:07

Caporal ☆☆☆	今自分の勉強している経済学や統計学はいったい現実世界のどこで役に立つのだろうか？と思わせてくれる本である。 ただ、すべてを鵜呑みにするのはどうかとおもうので、役に立ちそうなところをふむふむと読みながら自分の血肉にするのがおすすめかと考える。文章は非常にユーモアに溢れている。			
	全部	620P (658分)		2009/12/09 23:43:23

iwatobi-penguin ☆☆☆	世界のさまざまな大きな事象は予想できるけど頭の中から除外されているもの＝ブラックスワンから生じる。書いてある内容はシンプルですけど文章と事例がとても難解です。統計を極めたり世の中に出て大きなことを成し遂げたい人は読んでみる価値があると思います。			
	1-293	293P (250分)		2009/11/17 18:28:03

くらしく ☆☆☆	それなりに面白いと思うのですが、全体的な印象が薄いです。 平均的に面白い反面、飛びぬけてる面がないといった感じでしょうか。 一番合理的だと思ったのは冒頭の「書いててつまらないところは読んでいてもつまらないだろうから書かなかった」というところです。 凄い時間かけて読んで言うのもあれですけど、つまみ読みした方がいいと思います。			
	上1-293ページ、下1-116	409P (300分)	上258-259	2009/11/16 23:19:07

名無し ☆☆	着眼点が面白い。経済本だけどいろんな場面に適用できる考え方だと思った。 ただ、文章が読みづらい。いちいち比喩が多いしもっと簡単な言葉で言えるんじゃないかというところもあった。というわけで、下巻は100ページでギブアップ。			
	1～200（上）、1～100（下）	300P (480分)	なし	2009/11/06 02:02:13

	自分は月並みの国の住人かと思っていたが、どうも果ての国は思ったよりご近所みたい。

ねりな ☆☆☆☆	全てにおいてたとえ話を使って説明してくれるのでなんとか読めました。 ただ、読んで気持ちが良くなるという本では無いかと。いつも、気持ちがいい本しか読まない自分には良い出会いであった、と追認したいと思います。 とにかく、人の思考は安易すぎる、というメッセージは受け取りました。 「一人の人は一冊の本しか愛せない」という文には、不覚にも気持ちよくなりましたが。 ちなみに読んだのは上巻のみです。			
	3-6,13-23,33-37,58-60,66-84,102-104,137-141,155-177,201-206,232-242,284-293	100P (150分)	173-176,205	2009/10/13 12:07:55

TOPへ

リスク 上・下

著者名	ピーター・バーンスタイン	発行年	2001年
出版社名	日経ビジネス人文庫	ページ数	545ページ
値段	714円	ISBN	4-532190798
コメント	アイディアはリンゴみたいに天から落っこちてくるものじゃないんだ。 ベルヌーイやらベイジアンやらラプラスやら、今あなたを悩ませたり楽しませたりしている名前の人たちが、いったいどんな混沌に立ち向かい、何を征服しようと戦ったのか、乱高下する相場の先を読むためか、人びとの平均余命を推測して保険制度をつくるためか、はたまた？ 少しだけその戦場に立ってみたい。神々へと戦いを挑む戦士の気持ちになって。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
@ ☆☆☆	ミクロや統計を十分に理解した後読んだら、本当に面白い本だと思います。ただ、私の好みの問題もありますが、この語り口は非常に読みづらい… いつか、この本の本当の面白さがわかるころに読みなおしたいです。まだまだ自分には早かった気がします。いい本です。			
	上巻全部、下巻半分くらい	500P (1000分)		2010/02/14 13:29:34
Caporal ☆☆	第三章を勧めたのは、美術と数学を絡め美しさを表現しているということが書いてあるからです。 多分この本の本質はそんなところにないと思うんですが、下巻をよむのはあきらめました。			
	上巻	286P (320分)	第三章	2010/02/14 03:21:53
TD ☆☆	死ぬ間際まで「確実性」について研究し続けた科学者には頭が下がる。興味や好奇心がどんな欲望をも凌駕する人間だけが、科学者として歴史に名前を残せるのだなと思った。			
	195－227	32P (30分)	195－227	2010/02/13 22:43:32
gpx ☆☆☆	黄金分割とかの話は好きです。 １章があまりにもつまらなかったので、２章でやめました。			
	30-72	43P (40分)	２章	2010/02/13 08:16:01
	上巻の途中で挫折しました。			

うろくた ☆☆☆	おそらく面白い本なのだろうが、そこまで到達するのに時間がかかる。 あと、この手の翻訳調は好みではなかった・・。			
	上1-50	50P (60分)	なし	2010/01/21 14:32:42

ねりな ☆☆☆☆	平均回帰の話は面白いと思ったが、それは遺伝という性質であって、例えば「盛者必衰」というように社会の変動に当てはめて良いかどうかまでは分からない。 平均を知ることは社会全体の幸福を最大にするためにもちろん有用で、一方で、平均を知る事が出来ても、「正常」を知るのは不可能という部分に頷かされた。			
	上228-286	59P (60分)		2009/11/10 12:41:12

アメフト３号 ☆☆☆☆	確率論の学問としての認識の始まりのところとかが結構 読んでて面白かったと思う。 ただ、長時間読んでると途中で眠くなってしまった。			
	5-306	302P (160分)	特になし	2009/11/07 18:48:31

thjam ☆☆☆☆	表題の「リスク」はどちらかといえば概念・総論を表す言葉であり、（上）では、その歴史について、まずは統計学的なところから紐解いている。 ただ、（下）まですべて読み終えないと「リスク」全般にかかる総論までは、たどりつかない。 （下）の終盤で著者が述べているリスクマネジメントの未来の話は大変興味深い。			
	5-306 6-307	604P (120分)		2009/10/31 10:01:30

blue ☆☆☆☆☆	確率の考え方の誕生から現代のデリバティブまで紹介してくれる一冊。平均への回帰というのはひとつの道具に過ぎないし、何も普遍の教義の形式を持つ宗教ではないというように悟れるような柔軟性が必要だということは今回の金融恐慌で実感した人は多いと思う。それを歴史上ナイトやケインズが完全でなくとも気づいていたのはすごい。リスクマネジメントが非常に難しいことを改めて実感させてくれる一冊であり、近い将来自分が卒論などを書く際などにも仮説の棄却、棄却せずなど本当に注意しなければならないと思った。またデータから本当にそのことが言えるのかとひとつひとつ考えなけらばならないと思った。			
	上1-240,下7-239,260-280	492P (350分)	下127-160	2009/10/20 10:37:07

ＴＯＰへ

アニマルスピリット

著者名	ジョージ・A・アカロフロバート・J・シラー	発行年	2009年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	275ページ
値段	2,200円	ISBN	4-492313985
コメント	なぜ？ にしっかり答えてくれる本は、すがすがしい。 たとえば、失業者って、なぜ出るの？ 需要と供給モデルで考えれば、働きたい人が多ければ賃金が下がるはずだから、仕事にあぶれる人は出ないはずだよね。 そんな「なぜ？」の８連発。答えられるようになってください。 ちょっとカタめなので、経済学初心者さんは、2-3冊、ほかの経済本で「歯ならし」をしてからどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
@ ☆☆☆	行動経済学、マクロバージョン。 マクロの試験を終えてから読もうと思っていました。 でも間に合わなくて序章だけ(泣) 歴史方法論はもう終わりですが、これから読み進めたいです。			
	序章	10P (20分)		2010/02/15 00:56:29
thjam ☆☆☆☆	現在の不況をテーマにしているので興味深く読むことができます。			
	1-252	252P (120分)		2010/02/06 20:05:26
りょへ ☆☆☆	自分はこの本を理解するにはまだまだ知識が足りないんだなぁーと思った。 行動経済学についてマクロ経済学の観点から説明した本だと思う。 一週間ではなくもっと長い間借りてじっくり読みたいと感じた。			
	序章	15P (40分)		2010/01/27 02:02:54
Caporal ☆☆	自分の読解力が足りなかったからであろうか、なんか当たり前のことばかりを書いていた気がする。 そしてこれを読むとひたすらマクロ経済学の試験勉強早くやらないとな･･･と思っちゃうタイムリーな感想でした。			
	８＋1~58ページ	66P (80分)		2010/01/19 16:52:06
	タイトルに魅かれ、手に取ってみたけど、めちゃくちゃ難しかった。わずか12ページに60分かけて			

march ☆☆☆	読みましたが、序章にてうちのめされてしまいました。この本を読める日は来るのだろうか？でもきちんと理解できればためになりそう？という雰囲気はでてた。			
	1-12	12P (60分)	なし	2009/12/19 14:46:50

ぶるー ☆☆	一生懸命読んでは見たけど、私にはちょっと難しかった… もう少し、経済の勉強をしてから、もう一度読んで見たいと思いました。			
	始め-p13,p237-252	28P (60分)	初めのとこ	2009/12/15 02:06:10

くま ☆☆☆	もう一度借りて読みます。 目次的に第二部から面白くなりそうです。			
	1-42	42P (50分)	なし	2009/11/04 11:16:51

ＴＯＰへ

実践行動経済学

著者名	リチャード・セイラーキャス・サンスティーン	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	370ページ
値段	2,200円	ISBN	4-822247478
コメント	キーワードはNudge（ナッジ）。ちょっとしたお節介ってとこかな。 行動経済学の本って、ニンゲンってアホだねぇ、ひっひっひっと貧乏神さんが揉み手してるみたいな意地悪さがツキモノなのだけれど、この本は違います。敢然と問題解決型。アホニンゲンがしあわせに暮らすにはどんな制度設計をすればよいのか。いろんなケースに具体的な処方箋が示されます。 結婚の民営化、ってどうです、お兄さん？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
アルフ ☆☆☆☆☆	選択肢はたくさん与えられたほうがいいと思っていませんか？ しかし人間は選択肢を与えられた時点で誘導されてしまうのです。 ではよりよい選択肢の与え方とはどういったものでしょう。 人間の行動の不合理性などを具体例を挙げながら分かりやすく解説してくれます。 序章はちょっと堅い感じもするので第一章からの具体例ををちょっと読んでから序章にもどるのも良いかも。			
	全部	370P (180分)	33-109	2009/10/12 20:00:14

TOPへ

人でなしの経済理論

著者名	ハロルド・ウィンター	発行年	2009年
出版社名	バジリコ	ページ数	199ページ
値段	1,500円	ISBN	4-862381323
コメント	この世に正義なんてないのさ、あるのはトレードオフ、こっちよりあっちのほうが「相対的にマシ」という程度の夢も希望もない選択肢だけなのさ。ふんっ。 正義感あふれる若者スピリットを逆撫でしまくりの挑戦状、受けて立ってみてください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆	あらゆるもの、倫理的に「聖域」ともいわれるようなものさえも経済の天秤にかけて物事を考えるというのは、一つの考え方としてはなかなか魅力的に思えた。 こういう見方「も」出来る人はより広い視野を持って判断を下していけるのかもしれない。 ただ、内容よりも訳者の主張の仕方がカンに触ってしまって、なんだか好きになれなかった一冊。			
	全部	199P (120分)	本編すべて	2010/02/15 02:33:28
黒鳥 ☆☆☆☆	授業でも扱いましたね。 手元の問題が何であれ、その費用と便益をを考える。 このアプローチを受け入れるのに苦労する生徒が多いというのは人間捨てたもんじゃないということなのかな・・・。 倫理を問題にするわけじゃないけれど、やっぱ人としての温かみって重要な気がしてなりません。 先生ウィンターさんからの挑戦状受け取りました。。 さて、私が最近思うこと・・・「無駄」が人生を豊かにする！			
	5-41	36P (45分)		2010/02/13 15:37:59
とんぺい ☆☆☆☆	授業でも扱った本なだけあって、読みやすくて面白い内容でした。 費用と便益をはかりにかけるトレードオフ。時に倫理を捨ててまで考えるところは、何となく理系のニオイを感じます。			
	1-84	85P (90分)	49-52	2010/02/04 00:51:56
	授業でも扱った教材で、非常に面白い本でした。 いくつかのトレードオフの事例の紹介を主としていて、その事例が所謂『人でなし』なのだ。 読み物としても十分面白く、経済学的な観点からも、ケーススタディとして勉強になると思う。			

うろくた ☆☆☆☆	ただ、後半の例はわかりにくい上に、必ずしも納得出来ないものが多かったので、星4つ。 本の趣旨からは多少逸れるが、この本で扱うのは、貨幣を媒体とした評価関数で解決（その解決案が最善とは限らないが）出来るトレードオフである。 僕は、本当に『人でなし』なのは、とても貨幣なんかを媒体として評価出来ない、究極的な意味でのトレードオフだと思う。 とか、そんなことを考えた。			
	全部	199P (240分)	フォードのところかな	2010/01/21 14:46:01

アメフト３号 ☆☆☆☆	人の命の価値っていかほど？ という題材を、過去にあった人命の価値判定実験とかを例に引きながら書いてあって面白かった。ただ・・・本の帯あった様に、確かに人の神経を逆なでする。。			
	27-36, 45-53	19P (15分)	特になし	2010/01/20 11:01:11

blue ☆☆	かなり読みやすいし、トレードオフの考え方で様々な事例を紹介しているのはおもしろい。費用便益分析においては、しばしば人の主観やモラルに相反することもあると教えてくれる。 しかし、費用便益の分析で便益がそのままの大きさでは続かないのでそこは考慮すべきではないだろうか。（例えばある企業が製品の欠陥で訴えられ後、次期では当然売り上げは減るだろう） 長期のスパンまで考えての分析なら考える余地があるが、まったく言及されているところがなく本としての体をなしていない。 正義感云々、道徳心に欠ける云々とかはおいといては別に構わないが、これだと娯楽の本から抜け出せない。			
	1-201	201P (150分)	どこでもok	2009/12/19 20:59:22

PO ☆☆☆☆	授業でトレードオフについてやってから興味があったので読んでみました。読みやすく、出てきている例が面白いのでおすすめです。			
	全部	199P (150分)		2009/12/01 00:13:15

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆☆	人命には無限の価値などなく、有限の価値しかないというのはショッキングだった。			
	27-43	16P (15分)		2009/11/12 08:28:50

ぴよ彦 ☆☆☆☆☆	倫理・道徳は脇に置いといて、経済学の視点オンリーで社会問題を分析してみよう、といった感じの本。常識外れのトンデモな結論・解決法には呆れを通り越して笑ってしまうが、論理的な上手い反論も思いつかずもどかしい。 経済学を極めるとこんなアホなことも理路整然と言えるようになるのか、と感心した。（経済学をバカにしてるわけじゃありません念のため。）			
	14-143	130P (100分)	27-28	2009/10/19 06:12:18

@ ☆	タイトルはとっつきやすそうに見えるけれど、実際中は専門用語などが多く、正直読みづらかったです…。 特に、「トレードオフ」の意味が、ちゃんと本の中で説明されてなかったので、私の知識不足もあるけれど、全くわからなかったです。 もう少し知識を増やしてから、また読み直すかもです…			
	4-9P、26-36P、62-72P	28P (60分)		2009/10/12 20:52:14

ＴＯＰへ

アダム・スミス

著者名	瞠目卓生	発行年	2008年
出版社名	中公新書	ページ数	283ページ
値段	880円	ISBN	978-4121019363
コメント	今さらアダム・スミス？ そう、今だからアダム・スミス。 前期院生クラスでの経済本いちばん人気。 ご存知「神の見えざる手」は決してメカニカルな自由競争システム礼賛ではなくて、人間と社会に対する深い信頼と洞察に裏うちされたものなのですと、コチコチの古典をゆっくりじっくり吟味しながら、スミスの意図の深奥へと錘が下ろされてゆきます。 『国富論』の陰に『道徳感情論』あり。 経済イコールお金の動き、そんなカサついた先入観が、いつしかやんわり溶かされて、堅苦しい学問のお話なのに、心なごんでしまう不可思議さ。 ただし！ 濫読にはとてもとても不向きです。叡智の女神は根気よく扉を叩く者にしか微笑みません、少なくともこの本の場合は。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
黒鳥 ☆☆☆☆	まだ読み途中だけど時間ねぇーYO！！ この本、思った以上に読みやすい。（てめー70ページに何時間かけてんだよ！！ とか言わないでください） 普通ならもっとキャッチーなタイトルがついてても良さそうなくらいの本だと思ったよ。 なのにこの「アダム・スミス」って超絶普通なタイトルが、ツンツンしてて良し。 無愛想な先生が実はフランクなオモシロ先生だった時くらいの衝撃。 スミスさんの著作から彼の人間性だとかを紐解く感じも面白かったです。 ぜひ読んでみそ☆私も頑張って続きを読みます！			
	1-69	68P (120分)		2010/02/14 11:10:19
Whatever ☆☆☆☆☆	名著「国富論」、そしてその理論体系を支える「道徳感情論」をわかりやすく解説してくれる。とはいっても、テーマ自体が古典派経済学の固い話。自分には少し難しかったが、我慢して読み進めて損はなかった。幸福は平静と享楽にあるとし、社会的存在と定義した人間に対する深い洞察は200年以上たった今も色褪せてはいない。経済学の話であるはずなのに、現代の人間生活に充分通じるエッセンスがふんだんに含まれ、人とは何か、幸せとは何かに始まる温かみのあるアプローチに少し感動さえした。放任自由主義と揶揄されるイメージも強いと思うが、彼への印象は変わると思う。「国富論」で「万民の富」について明らかにしながら、その最終目標であったはずの「万民の法」を示すことができずにこの世を去った天才は、そこにどんな景色を見ていたのだろうか・・・。もうそれを知ることが出来ないのが少し残念である。			

	全部	283P (350分)	269-285	2009/12/15 00:29:25

@ ☆☆☆	60ページで挫折してしまいました(汗 どうも、こう淡々と小難しいこと書かれたのを眠い時に読むのはダメですね… また再チャレンジしたいです。			
	頭から60ページだけ	60P (60分)		2009/12/02 21:46:29

トム ☆☆☆☆☆	アダムスミスの思想体系が非常に上手くまとめられていて、とにかくわかりやすかった。 人間は他人の感情や行為に関心を持ち、それらに同感しようとする存在である、という前提を基にして、秩序の形成、社会の繁栄、経済成長まで、すべて論理的に一貫して説明されているところに、スミスの偉大さを感じた。 スミス＝見えざる手、程度の知識しかなかった私でも読めたので、本当に読みやすいです。			
	全部	282P (360分)	全部読んだ後に、終章をもう一度	2009/12/01 00:25:47

blue ☆☆☆☆☆	大して知りもせず「市場に自由に任せればうまくいくというスミスの考えは軽率だ」というような先入観にとらわれていたが、この本を読んで考え直す機会をもらった。資本を減少させないためにはどうすればいいのか、彼の生きた時代の背景をふまえた上で分業による効率性・政府介入における産業での優遇・抑制政策の廃止は、重商主義批判だけにとどまらない適切な案と受け入れることができた。 実際、イギリス植民地となっていたアメリカの独立から、中身がいいかどうかは別としてアメリカの経済が発展してきたのは事実である事をふまえると、スミスの将来への展望が優れていたことが伺えた。そして、長期的な分析だけでないことは、スミス自身が今どうするべきなのかを非常に慎重に判断している点で理解できた。 また、経済が発展する上で市場の失敗がでようと（失敗がなるべくでないでほしいことはもちろんであるが）、あるいはそれに反映した個人のステータスや人間関係に対しての心の浮き沈みが起ころうと、真の幸福は心が平静であることだと道徳感情論で言われている点で、国富だけでなくまるで今の不況下の生き方について補足してくれるかのようにスミスは考えていたと思うと、感銘を受けました。			
	1-285	285P (300分)	236-285	2009/11/14 23:10:58

くま ☆☆☆☆☆	アダム･スミスといえば「神の見えざる手」とだけしか思っていなかったけれども、アダム・スミスの論理的かつ冷静な経済現象の洞察･考察には驚かされた。アメリカ独立時期の話が面白かった。 アダム･スミスは｢道徳感情論｣｢国富論｣の有名な著作を残しているわけだが、その二冊についての解説を易しく読める本となっている。原文訳→作者の解説（逆の場合もあるが）は読み手が読みやすいように考えて書かれている。 これは経済を学ぶものにとってはかなり面白いと思うし、そうでない人もアダム･スミス＝「神の見えざる手」の固定観念は消えると思う。			
	全部	283P (360分)	序章・終章	2009/11/01 12:54:46

るー ☆☆☆☆	時間が無くて序章しか読めなかったが、ぜひ全部読みたいと思った。 経済の話だけでなく、歴史などの背景も丁寧に書かれていてわかりやすい。			
	1-24	24P (30分)		2009/10/13 17:06:26

TOPへ

真説アダム・スミス

著者名	ジェイムズ・バカン	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	203ページ
値段	1,800円	ISBN	4-822247492
コメント	カビくさい古典の棚卸しではありません。 しっかり現代につながってます。 行動経済学。人間の感情や心理に注目して経済学を再構築しようという、今まさに旬なこの分野は、じつはコチコチ経済学の始祖サマたるアダム・スミスの『道徳感情論』（かの見えざる手の『国富論』じゃないほう）と地下水脈でしっかりつながっているんです。あらびっくり。 1778年エディンバラ。悪臭（当時はどこでもそうだった）よけの花束かかえ、杖をマスケット銃みたいに肩にかついで、首をふりふりスミスが歩く（175ページ）。勤め先は関税局（自由貿易論者なのに！）。全然ごリッパじゃない偉人さんに出会えるのも楽しみ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
アメフト4号 ☆	国富論で有名なアダムスミス。名前しか知らなかったので読んでみたが全く興味がわかなかった。			
	1-30	30P (40分)		2010/02/01 01:46:25
あ、あめふと２号 ☆☆	真説アダム・スミスというより概説アダム・スミスといった印象。 読んでてあまり面白いといったものではなかった。			
	1-203	203P (200分)		2010/01/25 22:43:17
アメフト３号 ☆☆☆	アダムスミスの時代のことについてと、アダムスミスの身の回りの事について書いてあった。なにか文章が単調で、カタカタ文字がとても多く読みづらかった。 眠くなりました。			
	21-30	10P (15分)	特になし	2010/01/25 22:17:26
くらしく ☆☆	冬休みにいっぱい読もうと適当に取った一冊でしたが、爆弾でした。 はじめに、ぐらいしか読んでいないのですが、ずらずらと並べられたところが多く、読みづらくて眠くなりました。			
	1-23ページ	23P (30分)		2010/01/12 04:38:50

PO ☆	読みにくい、最後まで興味が持てなかった。 「我々の知らない本当のアダム・スミス」 もともとアダム・スミスあんま知りませんでした。			
	全部	203P (180分)		2009/12/07 23:55:54

くま ☆☆	読むのがつらくなってきたので。 つまり飽きた。			
	7-42（1章）	36P (70分)	なし	2009/10/23 22:29:11

TOPへ

予想どおりに不合理

著者名	ダン・アリエリー	発行年	2008年
出版社名	早川書房	ページ数	314ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4152089793
コメント	小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。 オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいのに、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。 なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。 そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆☆☆☆	この授業で「人間が合理的に行動するのは難しい」ということがよくわかりました。 興味のあるところだったので面白かったのですが、「あるある」で終わりそうです。 人間の弱いところがわかったところでどうしようもない気がします。			
	全部	340P (300分)		2010/02/14 21:04:41
とんぺい ☆☆☆☆	人間の行動に理由なんかない！ というわけではない。 理由はあるけど、しょーもないものなんですね。 でもだからこそ研究のし甲斐があるのかもと思いました。			
	23-234	212P (180分)	9章	2010/02/14 17:07:09
あ、あめふと２号 ☆☆☆	性的興奮の影響という章を読んだが、この性的興奮という人間が当初からもっている感情の中で一番動物的だと自分が思っていることには以前から興味があった。 この章でも取り上げられていることだが、性的興奮をしている自分とさめている自分は想像すればすぐ分かるがおそらく違う人であると思われるくらい同じ質問に対して異なった回答をするだろう。 性的興奮が動物に与える影響の不可思議な部分に興味をそそられないではいられない。			
	131-153	23P (30分)		2010/02/14 14:30:00

thjam ☆☆☆	人間は一様に同じ反応を示し、自分もその一員であることがよくわかった。			
	全部	314P (120分)		2010/02/14 03:45:32

TD ☆☆☆	経済は感情で動くと似ていたので、そちらで興味がある人はこちらも読んでみる価値はあると思う。 自分はちょっと苦手な方だったので、今回は50ページで断念でした。			
	0-50	50P (60分)	0-50	2010/02/01 22:15:49

肉 ☆☆☆☆☆	「無料の威力」のとこだけ読もうかと思っていたけど、面白かったので先まで読みました。 「たしかにそうかも〜」って感じでした。無料に弱い自分は気をつけなくては、、、			
	83-164	82P (80分)	目次	2010/01/30 12:01:48

アメフト３号 ☆☆☆☆	人の状況判断、最初に提示された条件を基準にしてしまう習性など、人間の不合理的な面が実験結果と共に書かれていて、とても面白い。			
	9-66	58P (30分)	特になし	2010/01/22 13:35:17

うろくた ☆☆☆☆☆	軽く流し読みしました。 授業で取り上げた教材だけあって、面白かった。 特に、不合理な行動を取ることを、統計でしっかり裏付けているのが良い。 ただ性の衝動の実験の妥当性は、僕は低いと思ったが・・（あんな状況の実験は、実験そのものが結果に影響を及ぼすと考える） 単純に読み物として面白い。が、上記のように、実験の状況が我々の行動に影響を与えている例も幾つかあると思うので、鵜呑みにするのは良くないだろう。			
	全部	314P (240分)	アンカリング効果の場所	2010/01/21 14:57:15

ぷりぷり ☆☆☆☆☆	大好きなビールにつられて13章のビールと無料のランチだけ読みました。この章だけを読んでもこの本が言わんとしていることは理解できます。 人間がいかに回りに影響されて損をしているかがはっきりします。 読みやすかったです。			
	305-322ページ	18P (10分)		2010/01/18 22:28:55

ねりな ☆☆☆☆	辺りを見渡せば、「損」と「得」がそこらじゅうに散らばっていて、あれも欲しい、これも欲しい、目移りしちゃってもうキャパ越え状態。それが多くの現代人なのでは。この本を読んでそう思いました。 単純な生活がしたいものです。			
	9-130,154-175,320-322	147P (120分)		2010/01/16 19:04:11

jessy ☆☆☆☆☆	すっごく読みやすい。特に事例が身近なものばかりなので、読んでいてすごく面白いです。先延ばししてしまうのはどうしてだろう、っていう章も読んだのに、コメント投稿を先延ばしにした私は、予想通りに不合理だ☆笑 最終章をよめばこの本の言わんとしてることすぐ分かります。でもどの章も面白いので他も読んでみることをお勧めします。			

	行動経済学って面白いなぁってめちゃめちゃ感じました。			
	全部	314P (300分)	305から最後まで	2009/12/22 15:53:41

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆☆	人間は、本当に不合理な生き物だと思った タダという言葉に弱く、合理的な判断ができなくなる 人間って愚かだなー			
	1-153	153P (70分)		2009/12/16 09:12:11

@ ☆☆☆☆☆	やたらと時間がかかってしまいましたが、読みにくいとか、そういうわけではまったくないです。むしろ今まで読んだ中の経済本では一番読みやすかったです。それは筆者のキャラクターなのか、訳者がうまいのか…あとがきで筆者は「学者っぽくない文体」で書くことに苦心したとあるので、少なからずそういった意識はあったのでしょう。こういう分野の本を書くにあたって、この意識はとても大切だと思います。 行動経済学、面白いですね。かなり心理学的側面が強い分野ではありますが。内容としては、「経済は感情で動く」といくつかかぶる部分があり(誤謬とかアンカリング効果とか)、かつそれをよりわかりやすく書いてくれています。 結局、経済にしても何にしても、人の感情抜きには考えることはできないのだとつくづく感じました。そして、それはいけないことと頭ごなしに言う必要もないのだと思います。 この本の何よりの特徴は、どの章も、実験に基づいて分析され、書かれていることです。私は、本を読んでいたら、「ここはこうなるだろうな」と予測をつけ、その通りにならないように行動したい、と思ってしまいましたが、実際何も知らずに実験を受けると、「予想通りに不合理」な行動をとってしまうのでしょう。 社工には実験がなくて、私も化学や物理の実験は大嫌いですが、こんな実験なら、授業であってもいいな、と思いました！			
	全部	314P (300分)	3章、6章、13章	2009/11/27 23:10:37

Got's ☆☆☆☆☆	「人間が合理的と考えると」という経済学やゲーム理論の一番根底にある仮定をいとも簡単にぶっ壊し、行動経済学への扉を優しく開いてくれる本です。 「無関係な結果からの独立性」…んなものないと(汗 この本のおかげで、心理学を交えた行動経済学に非常に興味がでてきました。 子供にただただご褒美をあげればいいものではないんですよ♪			
	1-175,305-337	207P (1分)	1章,2章,4章,13章	2009/11/11 00:02:24

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	経済学の本ですが、昼ご飯からビール、レポート提出、恋愛感情、さらには性的興奮まで、日常のどんな行動でも、経済学で表せてしまうものかと思いました。少しは「予想以上に合理的」な人でいられるといいな。			
	83～103,131～191,305～322,335～337	103P (80分)		2009/11/10 12:14:48

ざわ ☆☆☆☆	経済学上では確かに不合理な行動ですが私には本当に人間のその行動が不合理なのかなといろいろ考えてしまいました。やはり、人間を経済学のモデルに全てあてはまるのは難しいと思います。 この本で行動経済学っておもしろいなと大きな魅力を感じました。			
	9-22,83-175,261-337	200P (240分)		2009/11/03 16:31:47

	一見無意識に思える行為も人間の不合理な本能からくるものだということを知り、自身の内面について少し理解できた気がした。			

リリー・アリゾナ ☆☆☆☆	本書で取り上げられている実験は様々な不合理に対して裏付けを与えてくれたが、ちょっと出来過ぎた結果だなあと思うことがあった。			
	全部	314P (200分)		2009/10/27 21:15:43

アルフ ☆☆☆☆	やっぱり人間はアホ（不合理）なんだよなぁとつくづく思ってしまいます。 わかっちゃいるけどやめられないんですけどね。			
	全部	314P (120分)	154-175	2009/10/19 17:18:09

puzdog ☆☆☆☆☆	合理的に考えすぎて凝り固まった頭を揉みほぐすのにぴったりの本。ユニークな実験と筆者のジョークが面白い。章別に分かれているので興味のある章をどうぞ。			
	4章〜9章	100P (100分)		2009/10/14 23:23:07

TOPへ

経済は感情で動く

著者名	マッテオ・モッテルリーニ	発行年	2008年
出版社名	紀伊國屋書店	ページ数	302ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4314010474
コメント	こちらはイタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆☆	全編にわたって行動経済学に関する「問い」がちりばめられていて、飽きずに読み進められた。 事例の一つ一つは腑に落ちるようなそうでないような、という感じだが、よくよく普段の自分の経済行動を思い起こせば、思い当たる節がごろごろ出てくるはず。 実際これらの話自体は酒の肴くらいにしかなりそうもないが(経済学を学んでいる人には違うのかもしれないけど)ちょっと世の中のからくりがわかったような気分にさせてくれる1冊。			
	全部	316P (220分)	19-136	2010/02/15 02:42:53
#30 ☆☆☆	ひねくれ者な自分は、「ん？」とちょっと首をかしげる部分もあったが、素直に感心できる内容であった。自分が授業で担当した「1000円≠1000円」は、ほんとにそうだと思う。 ただ、生活しているうえで良く体験することなんだけど、いざ活字でその具体例をあげようとするとちゃんと納得できる例をあげるのは難しいことだろうと思う。ところどころ入っているクイズでは、自分の選んだ答えと、予想されるマジョリティーな答えが違っていることが多々あったので、それこそ人間というものは様々なんだよと。			
	全部	302P (240分)		2010/02/14 10:33:22
TD ☆☆☆	帯に書いてあった文句が面白そうだったので手に取ってみたが、どうしても眠くなってしまった。3つあると真中を選んでしまうという話には素直に納得できた。			
	0-100	100P (120分)	一章	2010/02/01 22:18:21
アメフト３号 ☆☆☆☆	先に借りて呼んだ「予想通りに不合理」と内容がかぶっていて、読み心地はまぁまぁだった。こっちを最初に手に取っていたらまた読み心地も変わっていたと思う。			
	20-50	31P (20分)	特になし	2010/01/25 22:19:35

肉 ☆☆☆	最初は面白かったけど、だんだん飽きてきてしまった、、 ある授業をずっと受けているけど、単位は落とす確率が高い、、 この場合、残りの授業の時間を他にまわした方が賢い選択なのだろうか？			
	1-126	126P (150分)		2010/01/25 15:45:22

ぴよ彦 ☆☆☆☆	『秘伝のタレは腐ってる』は著者のくだらないジョークの多さに辟易したけど、こちらはそんなことなく、読みやすかった。随所にクイズが用意されていて、数字には強いつもりだった自分も意外と非合理的な、矛盾した考えをしてることに気づかされた。			
	138-218	81P (60分)	1691-73	2009/11/16 06:15:37

ざわ ☆☆☆	合理的じゃなくて、何が悪いのと思っていたのですが、こうして私たちは騙されていくんだ、としみじみ感じました。 面白いなと思ったところは自閉症の子が経済学の理論に完全に従っているという事実です。 脳機能測定法やゲーム理論や…今、学んでいることが何かとつながっていることがわかって、嬉しく、もうちょっと勉強、頑張ろうと思いました。			
	全部	302P (300分)	234-246ページ	2009/11/09 20:50:15

@ ☆☆☆☆	面白かったけれど、時間がなくてあまり読めませんでした… 講義でも使った本で、講義で取り上げてないところも面白いなぁと思いました。 いくつかある質問は心理テストみたいで、当たる確率もそんなものかと(笑)私は、いつもこの作者が合理的だと考えるようには動かないようです。 時間ができたときに続きが読みたいです。			
	1-152、272-279ページ	160P (240分)		2009/11/05 06:51:36

Caporal ☆☆☆	授業で行動経済学のプレゼンをした直後に借りて読んだ。本の例題を解くとなるほど自分は合理的でないなと思うものや、逆に書いてあることはほんとに合理的なのか？と思わせるのもあった。 立ち読みポイントは、自分のプレゼンをしたところです笑			
	P1~158	158P (80分)	アンカリング効果	2009/11/01 17:39:44

blue ☆☆☆	普段自分たちが意思決定をしている時ほんとにそんなに合理的に選んでいるの？といった疑問に広範囲に及んで説明してくれる。 ただ全部が全部実験の結果を鵜呑みにするのはまずいと思う。例えば効用の大きさを極端に変えても同じ傾向になるかというのは疑問です。面白いネタにはなるでしょう。			
	1-185	185P (120分)	特になし	2009/11/01 13:24:05

フィクサー ☆☆☆	内容はすでにこの講義で扱ったものです。みんなのプレゼンの内容を整理することができたのでよかったです。ただ、読んでいてみんなのプレゼンのほうがずっとわかりやすくて面白かったとも思いました。でもすでにプレゼンで理解した内容なので、すんなり読めるはずなので冊数をかせぐのにイイと思います。濫読もしやすいです。			
	13-72ページ、88-93ページ、138-154ページ	73P (50分)	特になし	2009/10/31 00:35:23

	生活に応用できる実例が沢山のっているので、読んでいて楽しい。 何と人間は不正確なことでしょう。 僕らが大学でかじってるような経済学の大前提を踏みつけていくのが、少し残念でもあり痛快でもあった。			

Whatever ☆☆	しかしながら、個人的には納得できない例も何個かあったし、期待したほど驚いたり、新鮮味があった訳ではなかった。			
	1-218	218P (240分)		2009/10/23 23:44:14

ぷりぷり ☆☆☆	普段我々が陥ってしまうお金に関する錯覚について例えを用いて問題形式で書いてある。とても読みやすく、またどこから読んでも楽しめるので濫読しやすいのでおすすめの本である。			
	1-218ページ	218P (280分)	35-46ページ	2009/10/12 23:17:40

TOPへ

ヤバい経済学

著者名	スティーヴン・レヴィットスティーヴン・Ｊ・ダブナー	発行年	2007年
出版社名	東洋経済	ページ数	379ページ
値段	2,000円	ISBN	978-4492313787
コメント	今期、大量参入させた行動経済学本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
くらしく ☆☆☆	なるほど情報の非対称性。読んだページにはミクロやゲーム理論で言われていたレモンが具体的にどんなことなのかが書かれていました。 他の経済書に比べてはまだマシな読みやすさだとは思いました。やはり翻訳なりの日本人には掴みづらいニュアンスが紛れていて面倒だなあとも思いました。			
	61-78	18P (30分)	74ページ	2010/02/15 01:55:53
TD ☆☆☆	KKKはとても暴力的でリンチを頻繁に行っている集団だと思っていたが、データでみるとそうでもないことに驚いた。 この本にある例のように身の回りには真実が隠されてることが多いのだろうか。 ケネディがKKKを追いこんだやり方には思わずうならされた。			
	61-91	30P (40分)	61-91	2010/02/13 21:57:19
黒鳥 ☆☆☆☆	序章で完全に引き込まれた！と思ったら・・・ テーマの割に読みにくい！！（笑 全然進みません出した。。 いやいや、でもスティーブンさんすごいよ。あんたは天才よ。 目の付けどころがヤバい。 そして論理の構築もヤバい。 ヤバいのはスティーブンさん、そうあなただよ。 “疑問を建てるときの最初の秘訣は立てた疑問がいい疑問か判定すること！”→これから課題やる時は気をつけるぜ。もう３年生だね・・・			

	1-17 101-135 173-212	92P (90分)	序章	2010/01/30 12:20:03

とんぺい ☆☆☆☆	経済学の本とは思えないインパクトのある内容。 実際のところ、うわべだけでは物事の起こる要因は分からないってことかな？ 正直もうちょっと要点をまとめた文章にできると思った。 でも中身は面白かったので、☆４つで。			
	1-135	136P (80分)	序章	2010/01/30 01:07:25

うろくた ☆☆☆	注：50pをサラッと流し読みしただけの感想です。 この講義でこの手の本を読みすぎて、そろそろこういう語り口に飽きてきた。多くが海外の翻訳本だし・・。 奇抜な例を用いて、興味を惹きつけて、驚かせる・・的な・・ それと、『あるものは世間ではこう考察されていたが、実はこの要因が関係していて、これこそが原因なのです！』という主張が多いが、『これこそが原因』の根拠があまり示されていなく、中々信用できない（おそらくたぶん事実ではあるのだろうが） 論理性が気になる人にはお勧めしない。 へえーそうなんだー、と読む分には結構面白い。			
	つまみぐい	50P (60分)		2010/01/21 15:51:59

harry ☆	私は社会工学科に属しながら、経済とか政治とか社会とかの話がすごーく苦手だ。 冊数稼ぎに挑戦はしてみたもののやっぱりアレルギーが出てしまった。 得意な人には楽しいのかもしれないが私にはちょっと…			
	1～5	5P (5分)		2010/01/14 14:53:48

トム ☆☆☆	扱っているテーマは一見ふざけているように見えるが、データを分析し様々な疑問に対して答えを見つけ出すというところが読んでいて面白く、経済学の良い入門書であると思った。 ただ、翻訳のせいなのか若干読みにくい。			
	1-171	171P (240分)	序章	2010/01/11 16:27:04

Caporal ☆☆☆	不動産屋のところをみて、ああなるほどなーって。確かに自分もこうするわ。って行動経済学はなりますね。タイトルが興味を惹きそうなものだったので翻訳はその部分がよかったと思います。			
	1-122	122P (85分)	序章	2010/01/05 11:00:44

@ ☆☆☆☆☆	内容は、もちろん面白かったです。 それ以上に、私はこの作者、レヴィットさんという人間に感銘を受けました。 彼は普通の経済のこと、お金や株式のことや、デフレやインフレのことは良く知らなく(MITの博士課程の時点で常微分の記号と偏微分の記号の違いもわかっていなかったから驚き)、それより、この本に書いてあるような、一見経済学には思えないようなことにより興味を持っている、と本人自ら言っています。 しかし、彼は「教師、犯罪者、不動産業者は嘘をつくことがある。…しかし、数字は嘘をつかない」と言っているように、たくさんのデータに基づいた統計分析を詳しく行っています。うちの大学にレヴィット研があったら絶対行っていたと思います(笑) 私もこういう事柄・研究方法に非常に興味があるので、もっと統計を学びたいと、いい刺激になりました！342ページ以降の部分は統計をもう少し学んだ後にまた読み返したいです。			
	全部	414P (300分)	258-279ページ	2009/12/31 21:36:43

	もう少し翻訳がうまいとよかったが、内容はとても興味を持てる。特に、黒人と白人の教育/経済状態に格差はあるのか、またその区切りは適切なのかというところを細かく相関関係をみているとこ			

blue ☆☆☆☆	がおもしろかった。また、完璧な子育てのところは、親が子供にすることよりも、親の状態に相関関係があるようで、その関係が記された八つのコンテンツは参考になりました、将来子供や家族については関係ある話であるので。			
	1-238	238P (300分)	173-238	2009/12/08 13:09:07

りょへ ☆☆☆☆☆	読んでいてあーなるほどなと思うことが多々ありました。Freakonomicsが元の名前のこの本は一般の人に分かり易く紹介しながら経済学の面白さを伝えていると思います。 なるほど…freakなのか。			
	全部	255P (180分)	p137-	2009/12/06 02:19:52

PO ☆	正直言って退屈だった。 もう少し読者が読みやすいような書き方をして欲しかった。			
	全部	379P (360分)		2009/11/17 01:29:28

thjam ☆☆☆☆	P188あたりにある見解は、あーそりゃそうだな、と納得しました。			
	25-311	287P (30分)	188	2009/10/31 09:57:34

アメフト３号 ☆☆☆☆	ヤバイ経済学は、本書では膨大なデータに基づいた独自の推論がなされていて、呼んでいて飽きが来なかった。不動産屋さんとKKKの章が特に面白い。アメリカで使用されている名前あたりからは少々グダグダ感があったが、それを加味しても読む価値はある。 ただ、KKKの件が誇張や、他人の行為を自分の行為として書いているところとかか少し残念。			
	1-255	255P (300分)	特になし	2009/10/19 22:55:49

ＴＯＰへ